

2022/09/05

株式会社学書 田村茂彦

渡航期間①:2022/07/30~2022/08/14

株式会社学書(GS):田村 上村

片平エンジニアリングインターナショナル(KE)/Rasul 様

渡航期間②:2022/08/06~2022/08/21

株式会社デジタルナレッジ(DK) 高橋様 竹平様



GS:現地スタッフ 3 名雇用契約(翻訳者2名・数学者1名)。教材翻訳⇒編集後の最終チェックを REC 数学者に協力依頼(快諾)

JICA タシュケント:プロジェクト説明⇒LMS サーバ構築、都市部と農村部の格差是正に期待。公式理解⇒ひらめきが育てば。

⇒副教材がウズベキスタンの市場に少ない中、6・7年生の数学を親が指導するのは限界点。日本の副教材は現地に向いている。

⇒実証実験による効果測定及びデータ分析によりビジネス案件化可否(多言語展開含め)を見定める方針を先方担当者へ説明。

⇒本プロジェクトの対象が6~7年生、河合塾様の案件の対象が8~10年生⇒ビジネス化の際は連携も視野に(先方担当者より)

⇒ビジネス化案件考察の際は、現地学習指導要領詳細分析・インフラ・ビジネスモデル・端末環境なども検討課題である(同上)

先般の【基本のキ・数学(UZB)】は DK 主体(好評⇒進展無)、今回は GS 主体で、DK & KE は外部人材として選定・招聘。

【デジタルドリル中学版(数学・UZB)】:単元をレベル毎に問題表示⇒ノートに解答⇒解答表示する自立型スパイラル学習の副教材。

本年10月中旬より実証実験を2校+1校で実施:タシュケント市6番学校/ブハラ州1番学校/私立中学校(Orient School)

<「デジタルドリル中学版(数学・UZB/実証実験の実施想定)>

① BUILDER単元テストを実施「正の数・負の数」「文字と式」ウズベク語版ペーパーテスト(全員)

② 「正の数・負の数」:要点のまとめ(要旨動画・ペーパー配布)で学習(該当単元の復習)

③ デジタルドリル(中学版)「正の数・負の数」を学習 ※②は適宜学習時に使用可能とする。

④ 「文字と式」:要点のまとめ(要旨動画・ペーパー配布)で学習(該当単元の復習)

⑤ デジタルドリル(中学版)「文字と式」を学習 ※④は適宜学習時に使用可能とする。

⑥ BUILDER単元テスト実施(①と同一)「正の数・負の数」「文字と式」ウズベク語ペーパーテスト(受講生)

⑦ ①…1日、②…2日、④…2日、⑥…1日 → $60-6=54$ 以上により授業数は54日想定(45分/1時間)

※校長・保護者・生徒・各種教育機関へ事後アンケートを実施。保護者向けには本商材の説明会(オンライン含む)も実施想定。

※実施には1教室1名ファシリテーターを用意し、Teaching ではなく Coaching に務める役割を担う。

REC:本年10月中旬より実証実験を2校で実施想定を説明したところ追加地区の打診をいただく(フェルガナ地区など)

REC 側でファシリテーターを用意、GS 側でファシリテーター教育が実施でき、環境が整う該当学校がありそうであれば協議。

2022/07/30~2022/08/14 は REC 側で就業場所確保が出来なかったため、別途有料会議室を個別手配し実務実施。

REC 出版部:ナショナルカリキュラムで新教科書を作成(民間委託)している。執筆者が少なく制作は常に難航する。質が悪い。

理科(化学・物理)の教科書作成に数年前に臨んだが学習内容が混同し混乱を招いた(専門家不足のため)。良い問題集が必要。

海外から専門家を呼んで新たなスキルや技術を用意しないと教材不足の課題解決が出来ない⇒プロジェクトに期待と関心。

REC は出版物の審査機関(UZB 語版)、国民教育庁が海外のカリキュラム認可を認めれば GS 社の教材も翻訳して活用は可能。

今後の協力体制の改めでの確認と REC の打診に応じて教材サンプルを提案し、国民教育庁への海外のカリキュラム認可も検討。



今回の JICA プロジェクトに関しては我々も期待を多く持っています。国としては今後大きく教育分野を改革していこうという強い動きがあるので、これを基軸に先般に「教育フォーラム」を開催し全国(地方)の教育担当者へ伝達した。ちょうどいいタイミングでプロジェクト推進に協力できることを非常に光栄に思う。教育フォーラムを REC 主催で開催(2022/08/09)。教育大臣も参席していたため今回のプロジェクトを説明した。

GS 〆 REC 間にて【MINUTE OF DISCUSSION(MOU)】を内容確認にて締結実施。

今回の JICA プロジェクト結果(実証実験と詳細分析)を UZB の広い範囲で共有したい。これにより学校(アフタースクール)で使えるようになる可能性を高めたい。教材制作のプロに現地の教材制作に力添えいただきたい(教材制作ノウハウの享受)

→日本・韓国・英国ともプロジェクト進行が同様にあるが、GS とは新たな協力体制を作りたい(理数系の教材データを提供など)

GS /Q. 国民教育省に日本の学習指導要領を提出し、カリキュラムとして正式な認可が得られれば学校等で当社教材 UZB 版を副教材として選定いただける可能性はあるか？

REC/A. 大統領令の 17 号では 8 カ国(日本含む)のカリキュラムの導入想定がある(大統領令)学校現場で新たなカリキュラムはどのように適応・認可していくかを REC で検討段階。

※GS の豊富な教材コンテンツと DK のデジタルテクノロジーで可能性は無限に広がる。

※フェルガナ州知事は日本式の教育カリキュラムを導入しようかと検討を進めている。

→国際カリキュラムとしての導入の一環としてフェルガナ州知事が日本を選んだ。



訪問先①:タシュケント市6番学校 数学・音楽に力を入れる MAKTAB。当社の副教材は「あい・シンク」「小学生ワーク」に関心あり。プロジェクト説明⇒実証実験快諾。数学講師にも手助けさせたい。7年生の人数が多い学校(14 クラス/UZB 語は7クラス) 教員は出来る生徒を最前列・出来ない生徒を最後列に配置。→新しい副教材で不十分な現状を打開できる可能性があれば幸い。成績の良いメンバーを伸ばそうというプロジェクトは聞かすが、本プロジェクトの主旨の学力格差の是正と基礎学力の向上に賛同。デジタル学習環境は一応に整っている。

訪問先②:ブハラ州 1 番学校 外国語授業では英語ではなくドイツ語を学習する。家庭の経済状況で学力格差が生じている。校長先生及び現地の国民教育省役員(急遽来訪)へプロジェクト説明⇒最終的に実証実験快諾。その後の展開にも現段階から関心。デジタル学習環境は一応に整っている。(PC15台、時間交代で30名を提案いただく)インフラの速度計算する多少遅い印象有。

その他訪問先①:THOMPSON SCHOOL(タシュケント市)。当社の副教材は「あい・シンク」と「基本のキ」に関心あり。大学留学及び受験塾:9校舎展開で5000名の生徒が通う。教材は Oxford。昨今は英語学校の競争率が急拡大中である。⇒90分/1回/週3回(月謝 620,000 スム≒7800 円)、当社の副教材(UZB 版)構想の可能性ヒアリング⇒映像のみは△ ⇒数学は SIT(IELTS の数学版)の高得点を目指して学習している支店あり。(IELTS 高得点で英語免除と同様になる可能性)

その他訪問先②:Oriental School(タシュケント市)。教育課長にプロジェクト説明⇒校長と要件の上返答(後日に OK 返答) 今年の新学期小学1年生を加えると 580 名(1-10 年生)。9-10 年生は合計 90 名、8 年生は 70 名。6-7 年生は各 45 名在籍。特徴:男女でクラス分け。アラビア語は必須科目。10 年制。1 日中学校で学習出来る(国立学校は2部制(AM・PM)の場合有)。UZB に於いて学校教材(学習指導要領)がグローバルスタンダードと見合うか調査を始めている。



その他訪問先③:Qoroko' l ta' lim 数学塾(ブハラ州)。当社の副教材は「ビルダー数学・理科」と「あい・シンク」に関心あり。プロジェクト説明(数学塾での実証実験データは稀有のため)⇒次回来訪迄に検討する。ビルダー(テキスト)非常に優れた構成。「ビルダー数学・理科」はUZB語版のサンプルを打診されるので2単元分を翻訳手配し、次回持参することを提案する。

その他訪問先④:JAPAN DEGITAL UNIVERCITY(タシュケント市)。(株)デジタルナレッジ運営の大学 10月新学期現在は180名。本年300~400名の追加入学者を迎える。地方都市からのエントリーが多い。新たな校舎建築検討。一般的な私立大学の2倍の学費だが生徒は集まっている(分割払い、後払い、奨学金、アルバイト斡旋あり)。現在は2部制。コロナ禍に於いて自学自習はデジタル主体を考えたが、キャンパスは対話やモチベーションの場であり対面主体に早めに戻した。「あい・シンク」のようなロジカルシンキング教材は大統領学校でも出題される。特別な知識・経験・対策が必要(⇒翻訳出版打診)

その他訪問先⑤:(株)デジタルナレッジ/JDU 運営塾 (英語教育・タッチ等、民間教育の運営塾(実証実験中))
「あい・キャン英語」「あい・シンク」に興味関心高く、保護者からも求められる商材ではないかと評価いただき、次回訪問時にUZB語版サンプルを持参するので、保護者・生徒・講師からヒアリングやデモ授業の実演やアンケート実施を提案。

その他ヒアリング① Ms.Fatima (基本のキの際に協力いただいた数学教師)

プロジェクト説明。事後に活用予定の保護者向けアンケート・数学講師向けアンケート(UZB版)に関するヒアリング⇒微修正反映
数学の講師として悩みは多々ある。教科書の指導内容はあるが指導書(手引書)はない。5年に1回教授法を学習するのみである。教科書は問題数が少ないため当社の副教材(問題集)は翻訳すると重宝されるのでは(現地の学習指導要領との比較問題はあるが)娘はアフタースクールに週3回/1カ月/200,000スム≒2500円)学校外だと300,000スム400,000スムの認識である。

